

北海道立文学館特別展

＜作家たちの交差点 「北の話」が残した時間＞対談

いま、 「北の話」を語る

乳井洋一氏（北海道新聞 OB）

金子国彦氏（北海道新聞 OB）

9月5日（土）午後2時～

会場：北海道立文学館講堂（中島公園 1-4）

かつて札幌で「北海道を旅する手帖」として発行された郷土随筆誌「北の話」。1963（昭和38）年に創刊され、1997（平成9）年の終刊まで、通巻202号を重ねた雑誌でした。A5判とコンパクトながら、道内外の著名な作家や詩人たちの随筆、紀行文を掲載し、文芸の香り濃い「小さな大雑誌」と注目されました。

作家でもあった八重樫實さんが編集人、詩人だった津田遙子さんが発行人という夫妻の二人三脚が作りあげた雑誌でした。

この雑誌に寄稿していた乳井洋一さん、金子国彦さんの北海道新聞OB2人が、「北の話」が残したもの、そして編集人・発行人夫妻の思い出などを語り合います。

聴講無料。定員25名（事前予約制）

問い合わせ・申し込みは8月21日（金）9:00から電話で

北海道立文学館 ☎ 011-511-7655 まで

特別展 作家たちの交差点－「北の話」が残した時間

会期 8月22日（土）～11月15日（日） 北海道立文学館特別展示室
観覧料 一般500円 高大生250円 中学生以下65歳以上無料